知識の花弁

三田メディアセンターだより

No.3
2014春

三田メディアセンターを使いこなそう

知って良かった ツール＆サービス
請求記号のすゝめ

コレクションの広場
遠山音楽文庫

図書館の舞台ウラ
「電子ジャーナルリスト」そのウラ側で

貴重書紹介
『数学覚書』

スタッフレポート
冷凍庫には本!? 古典資料を守るディープな世界

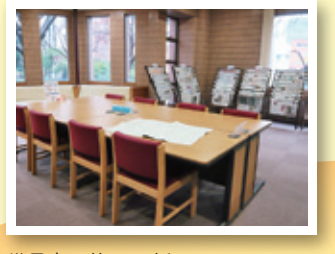
主な出来事（2013.10-2014.3）

慶應義塾図書館

三田メディアセンターを使いこなそう

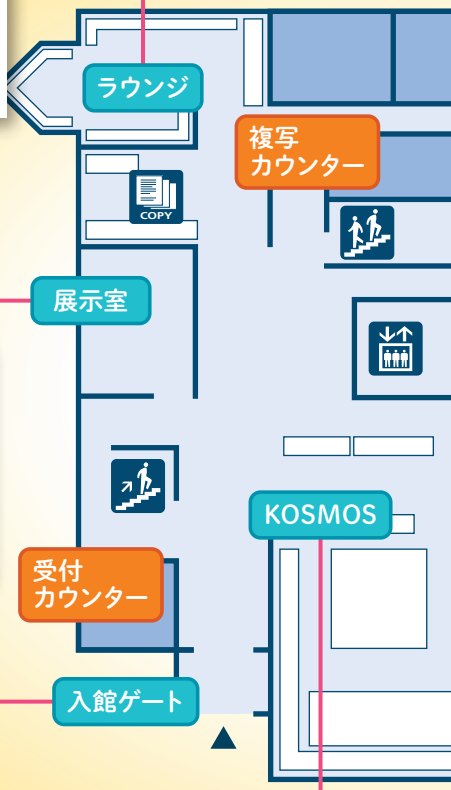
新館は地上５階から地下５階、さらに旧館と南館
膨大な資料がいたる所にある三田メディアセンターを
上手に使いこなすために
まず新館１階を理解することから始めましょう！

＊他のフロアにつきましては、フロアマップをご覧ください



世界中の約100紙の
新聞最新号が閲覧できます

慶應義塾図書館が所蔵する
貴重な資料を公開しています



学生証や図書利用券を通して
入館します

探している資料を検索し
配架場所を確認できます

展示室へのお誘い

三田メディアセンター所長
田村　俊作

慶應義塾図書館・新館のエントランスを入ると目の前に展示室があります。ホールの中に作られた小さな部屋ですが、三田メディアセンターにとっては、その貴重なコレクションや塾内の学術資源を提示する大切な場所となっています。図書館の基本は、何よりもまず、学習・研究に必要な情報源を揃え、そうした情報源の利用しやすい環境を整えることですが、それに留まらず、所蔵資料を中心に、図書、雑誌、新聞、書簡、文書といったさまざまな資料を通じて、人類の知の営みの歴史と多様性を提示し、新たな知の創出を刺激する、ということも図書館の大切な役割と考えています。インターネットで情報を簡便に入手できる環境が整ってくればくるほど、こうした「本物」を直接目にする機会は貴重になってくるに違いありません。

**文献探索ツアーについて
お話を伺いました**

内藤　恵
（法学部教授）

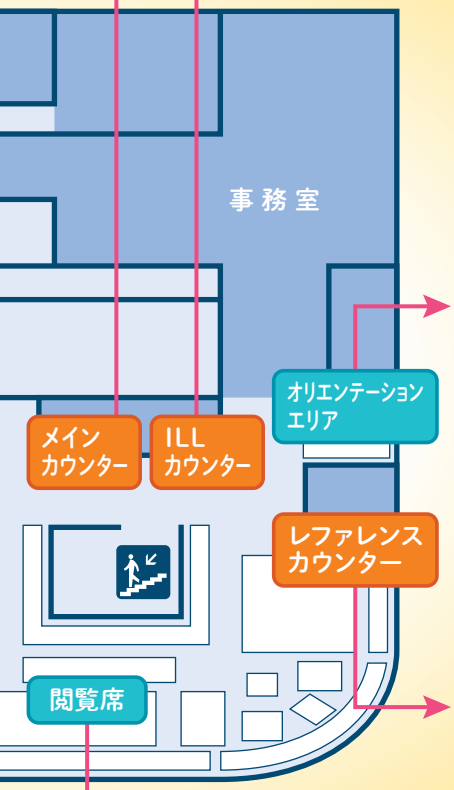
文献探索ツアー利用の勧め

文献探索ツアーは、現在では各学部の多くの教員が利用する有意義な制度です。ゼミ毎に開催する場合は、各々の学問的テーマを、三田メディアセンターを使って如何に調べるかを学びます。具体的には、図書館のデータベース・レファレンスツールの使い方や、当該分野でよく利用する資料は何であるかを、実際のデータベース等を使って教示されます。同時に団体で図書館の中を歩き、実際に資料を確認する作業も含まれます。

私のゼミ生を見ても、日吉の図書館は書籍が中心なので各分野の専門雑誌論文を見る機会が少ない様子です。これに対し三田の専門課程では、より専門的かつ学問的な資料収集が必要とされます。その手順と方法を、学年の最初に学ぶことは極めて効果的です。またこのような資料収集術は、社会に出ても異なる分野・テーマについて発揮される無形の力となります。是非この機会にゼミナールで、あるいは個人で利用されることをお勧めします。

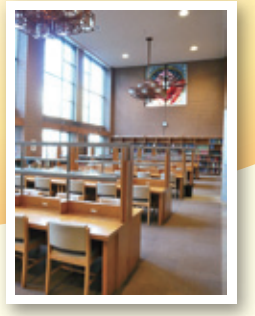
資料の貸出・返却、
予約資料の受取はこちらへ

学外から取寄せた資料、複写物の
受取はこちらへ



文献探索ツアーで、様々な
情報検索ツールや資料を紹介します

電子資料や学外の資料検索など
研究調査に関するご相談はこちらへ



大きな窓と高い天井が開放的な、
館内でもっとも落ち着いた閲覧席です

知らなきゃ損する、図書館

文献探索ツアーでステップアップ！

三田メディアセンターには、図書、雑誌が約270万冊、データベース100以上、約9万タイトルの電子ジャーナルなど、国内外のものを数多く所蔵しています。

その中でどのようにして、毎週のゼミの課題や、授業のレポート、卒論作成に必要な資料を探しますか？ **文献探索ツアー**では、みなさんのゼミやクラスの研究テーマ、資料の探索レベルにあわせて、おすすめデータベースや、図書館の中を実際に歩いて、統計資料や雑誌論文などの探し方をご紹介します。ツアーに参加した後は、図書館のウェブサイトにある「ゼミ別基本資料」から、紹介されたデータベースや、雑誌、図書などもチェックできます。早い時期に資料の探し方を知っておけば、三田での研究が充実すること間違いなし！ 申込みや詳細はレファレンスカウンターへお尋ねください。

データベースナビ

探したい資料の種類や、
テーマにあったデータベースを
選ぶことができます。

ゼミ別基本資料

ツアーで紹介されたデータベースや、
資料を見ることができます。
データベース名をクリックすれば
検索ページにリンクされます。

神崎　忠昭
（文学部教授）

「化石」としないために

生きる化石「シーラかんざき」と自称するほどですが（むしろそうであるゆえに）**文献探索ツアー**は今や不可欠の存在です。きっかけは20年近く前データベースが普及し始めた頃。いろいろなところでデータベースの有用性を耳にし、利用できればとは思ったのですが、教員という立場はちょっと窮屈。イロハから教えてもらうのは恥ずかしい。そこで「学生のため」という名目で引率したのです。以来40回くらい、1年生用、2年生用、3・4年生用、院生用など、様々なレベルで参加しました。希望を伝えると、そのレベルに合わせて内容を設計してくれます。前回と変わらないと思う年もあれば、大きく変わっていることもあり、油断はできません。CiNii（現在はKOSMOSの検索画面からも利用可能）やJSTOR、自分の専門に関わるInternational Medieval BibliographyやHistorical Abstracts等々、たくさんここで学びました。しかし、それ以上に重要なのは、日本有数の図書館である三田メディアセンターを活用して、「化石」としないことです。ここは知の宝庫です。自分の経験知に頼るのではなく、図書館員の専門的知見も仰ぐならば、ちょっと違った世界が開けるかもしれません。

知って良かった　ツール＆サービス

請求記号のすゝめ

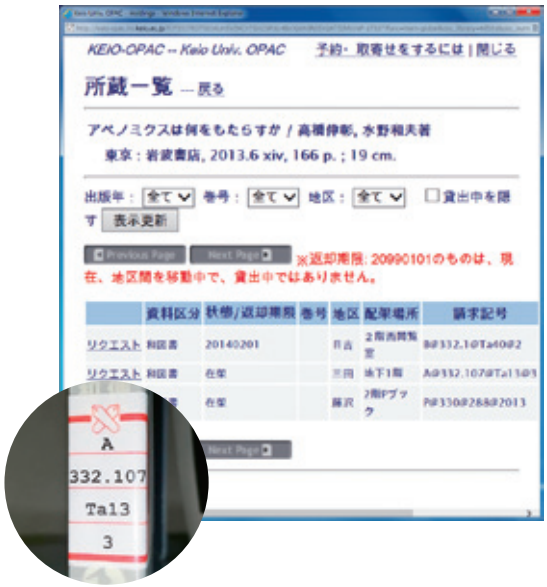
図書館の本にはラベルが貼ってあり、そこに記号や数字が印字してあります。これを**請求記号**と呼んでいます。昔の図書館は閉架式といって書架に自由に入ることはできませんでした。目録で探した書名や著者名と配架場所を表す記号を書いて、書架からの出納を請求したのが請求記号という名前の由来です。

現在、三田メディアセンターは、ほとんどの書架の本を自由に手にとって見ることができる開架式図書館です。探していた本の横に思っていた内容の本があってラッキーということもあるかもしれません。これは、請求記号の中にその本のテーマを表す番号があることで、同じテーマの本が近くに集まって配架されているからです。さらに同じ番号内では、同じ著者の本が集まりやすいルールになっています。今回は三田メディアセンターの蔵書のうち、学生のみなさんがよく利用する和書と学部図書の請求記号がどんな意味を持っているかご紹介します。

・・・

請求記号が長いのはなぜ？

図書館地下1・2階には、学生用にメディアセンターが選定している和書が並んでいます。1段目の「A」は和書（日本語、中国語、韓国語の本）を表し、2段目が日本十進分類法という規則によって本のテーマを数字で表しています。3段目は主な場合、著者の頭文字と数字を使ってその本の著者や編者を表し、4段目に追番をつけて必ず4段の構成です。右図の本の請求記号を見ると、日吉は2段目を332.1「日本経済史・事情」としていますが、三田では日本経済史の本が多いため、332.1に続けて「平成時代」を表す07を付けて332.107「平成時代の日本経済史・事情」とさらに詳しいテーマの番号にしています。このように同じ本でもキャンパスによって違う請求記号が付けられています。



記号の種類が多すぎる…

請求記号と配置場所をメモしても、地下3階では本のありかにすぐにたどり着けないのではないでしょうか。様々な記号の本が並ぶこのフロアには、文学部専攻ごとに教員が選定している学部図書が並んでいます。請求記号の1段目の記号が文学部の専攻を表し、哲学専攻は**PH**（Philosophy）、西洋史学専攻は**WH**（Western History）など、専攻名の英語表記から文字をとって記号化しています。2段目が本の分野と和洋を表します。

また、旧館にある経済学部図書は**EC**（Economics）、南館図書室にある法学部法律学科の図書は**JR**（Jurisprudence）、政治学科の図書は**PL**（Politics）、商学部図書は**BC**（Business & Commerce）を1段目の記号としています。

・・・

図書館にとって**請求記号**は、蔵書の構成や配架場所を管理する上で重要であり、貸出ルールをコントロールする役割も持っています。請求記号に興味を持った方はKOSMOSトップページの最下部にある 請求記号別貸出規則 を参照してみてください。様々な請求記号の貸出規則と取寄せサービスの可否が一覧できます。

コレクションの広場

遠山音楽文庫

遠山音楽文庫は、日本を代表する音楽評論家の一人、遠山一行氏（1922–）が設立した「旧遠山音楽財団付属図書館」の蔵書の一部を中心とした中世・ルネッサンスから現代に至る音楽に関する、西欧で出版された図書・楽譜、逐次刊行物、音響資料、マイクロフィルムからなるコレクションです。そしてそれらは、現在でも単行書や楽譜を中心に引き続き収集されています。1万冊に及ぶ蔵書の中には、メイボムの『古代音楽の創始者 *Antiquae musicae auctores septem*』（1652年初版本）などの稀覯書も含まれています（ニューグローヴ世界音楽大事典では、マイボム『7人の古代音楽創始者』）。

遠山氏は音楽評論家として活躍、平成10（1998）年に文化功労者に選ばれています。昭和37（1962）年には、我が国の音楽学研究のために遠山音楽財団とその付属図書館を設立し、原譜などの音楽学関係資料を多数収集・保存してきました。そして昭和59（1984）年、総合大学の図書館で一般に公開している所に西洋音楽に関する資料を寄贈したい、という遠山氏の意向から慶應義塾図書館に遠山音楽文庫が創設されることとなります[1)]。現在では多くの大学図書館が一般公開されていますが、当時、一般の音楽研究家も閲覧できるような開放的な大学図書館は多くはありませんでした。

この時点で図書・雑誌・楽譜など17,000点以上、レコード7,000タイトル以上が寄贈され、慶應義塾図書館の西洋音楽関係の資料は、大変充実したものとなりました。同時に遠山記念音楽研究基金の寄託も行われ、現在も音楽学関係資料の購入や、音楽学研究の振興に活用されています。毎年、資料の追加購入が行われ、遠山音楽文庫は更に充実したコレクションとなっています。また、遠山音楽文庫の受け入れを記念して、文学部に「音楽学」講座が設置されています。

遠山音楽文庫の資料はKOSMOSを使って検索することができます。楽譜、レコード、参考図書類は旧館3階に、音楽学に関係する図書・雑誌は旧館地下2階に所蔵されています。歴史ある旧館の中で、音楽の研究に励んでみてはいかがでしょうか。

（岡田将彦）

遠山音楽文庫　書架
The new Grove dictionary of music and musicians. 2nd ed.

Meibom, Marcus. *Antiquae musicae auctores septem.* 1652.

※ 遠山音楽財団が所蔵していた日本音楽関係の資料は、現在、明治学院大学図書館付属日本近代音楽館に所蔵されています。
（http://www.meijigakuin.ac.jp/library/amjm/）

1）中野博司「慶應義塾大学遠山音楽文庫」『KULIC』19号　1985.

図書館の舞台ウラ

「電子ジャーナルリスト」そのウラ側で

メディアセンターが提供している電子ジャーナルはおよそ9万タイトル。その利用のため、KOSMOSとは別に「電子ジャーナルリスト」を提供しています。

「電子ジャーナルリスト」は、現在世界中の図書館で広く使われている電子ジャーナル専用のシステム「SFX」で管理しています。SFXが持つデータをもとに購読情報を管理するため、慶應の契約と異なる情報が掲載されていることもまれにあります。利用者の方からアクセスできないという連絡を受けたときは、書店を通し提供元に契約状況を確認してもらいます。提供元が小さな出版社の場合は、回答が来るまで時間がかかることもあり、いつになったらつながるものかと、とてもやきもきします。

電子ジャーナルの提供元が変わってしまうときは、情報のつけかえ作業をする必要があります。タイトルの入れ替えが発生したときは、1つ1つタイトルを照合し、地道に差分を調査することもあります。登録が無効になっていたり、リンクそのものが切れていることもあります。スタッフが手分けして定期的にアクセス状況の確認をしていますが、アクセスできない、あるいは収録範囲が異なるジャーナルを見つけた場合はお知らせください。契約状況を確認し、「電子ジャーナルリスト」を修正します。収録範囲の修正や新規登録、またリモートアクセスが可能であることを表す家マーク（🏠）などの更新内容は、KOSMOSでは1か月に一度のタイミングで反映されますが、「電子ジャーナルリスト」では翌日に反映されます。

最近は、和雑誌の電子ジャーナルも増えていますが、システムにデータが入るのが遅いため、登録に時間を要することもあります。そのため書架でも電子ジャーナルが利用できることがわかるように、電子ジャーナルのサイトへジャンプする**QRコードの見出し**を設置しました。スマートフォンや携帯電話から、簡単に電子ジャーナルにアクセスできます。

今やメディアセンターの資料として欠かせないものとなっている電子ジャーナル。それを安定して利用していただくために、日々地道なメンテナンスが繰り広げられています。電子ジャーナルをおおいに活用し、学習・研究活動に役立てていただければと思います。

（雑誌担当）

貴重書紹介

『数学覚書』 シモン・ステヴィン　フランス語初版　レイデン　1605-1608年

Stevin, Simon (1548-1620)　*Mémoires mathématiques: contenant ce en quoy s'est exercé le très-illustre, très-excellent prince & seigneur Maurice, prince d'Orange, conte de Nassau, Catzenellenboghen, Vianden, Moers, &c. ...*
A Leyde: Chez Ian Paedts Iacobsz., 1605-1608.　5v. in 1: ill.; 31cm.　[141X@147@1]

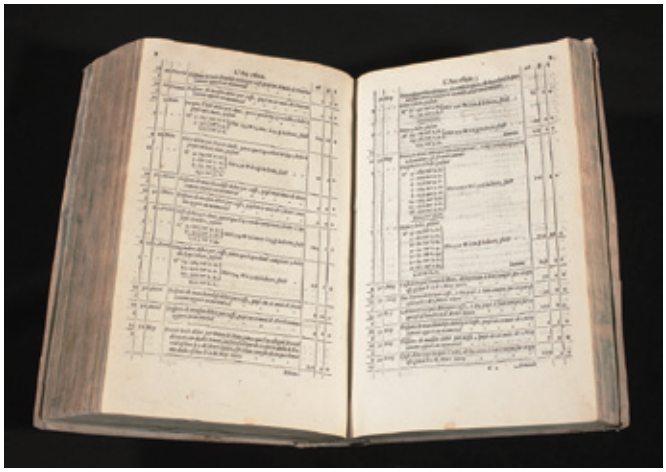
友岡　　賛（商学部教授）

会計史上、近代会計の成立プロセスを辿る道筋のひとつに［14・5世紀イタリア→16・7世紀ネーデルラント→18・9世紀イギリス］というものがある。

この道筋を構成する「14・5世紀イタリア」、「16・7世紀ネーデルラント」、「18・9世紀イギリス」は、そのいずれにおいても、会計史上の重要事をみることができ、すなわち、14・5世紀イタリアには「複式簿記の成立」、16・7世紀ネーデルラントには「期間計算の成立」、18・9世紀イギリスには「発生主義の成立」をみることができ、これらが19世紀のうちに近代会計を形成する。また、この道筋は、経済発展の道筋、にほかならず、世界経済の中心ないし最先端は14・5世紀にはイタリア、16・7世紀にはネーデルラント、18・9世紀にはイギリスであった。すなわち、この道筋を辿るということは、経済発展のプロセスにおいて近代会計の成立プロセスをみる、ということを意味し、そこには、経済発展によってもたらされる新しい状況が新しい会計を必要とする、といった理解が前提されている。

さて、ここに紹介される『数学覚書』は「16・7世紀ネーデルラント」の書であって、会計史上は「期間計算の成立」にかかわる。

今日一般に行われている利益の計算は「期間計算」と呼ばれるが、その成立プロセスは企業形態の近代化プロセス、特に［当座企業→継続企業］の移行と重ね合わせてこれを捉えなければならない。中世イタリア商人の地中海貿易を代表例とする当座企業は、終了が予定されている企業、としてこれを定義することができ、すなわち、（予定されているために）終了を待つことができる当座企業の場合、利益の計算は企業（貿易航海）の終了時における清算、という形をもって行われていたが、他方、今日一般に行われている継続企業は、終了が予定されていない企業、としてこれを定義することができ、すなわち、（予定されていないために）終了を待つことができない継続企業の場合、時間的な区切りを設け、つまり、期間を定め、その区切られた期間について利益を計算することとなった。このような期間計算は先駆的には中世のフィレンツェに原初的な形態のものがみられ、また、その一般化、さらにまた、定期的な期間計算の成立は16世紀以降のネーデルラントにみられることとなる。



会計史において16・7世紀は複式簿記の伝播と期間計算の成立の時代、その中心的な舞台はネーデルラントであった。14・5世紀、商業、芸術の黄金期イタリアに成立をみた複式簿記は16・7世紀、これも商業、芸術の黄金期ネーデルラントへと向かう。

MEMOIRES
MATHEMA-
TIQVES.
Contenant ce en quoy s'est exercé
LE TRES-ILLVSTRE, TRES-
A LEYDE,
Chez Ian Paedts Iacobsz. Marchand Libraire,

この時期のネーデルラントにおける簿記文献はアントウェルペンの商人ジャン・イムピンの『新しい手引き』をもって筆頭とする。ヴェネツィアにも長く住んだというイムピンの書はルカ・パチョーリの『スムマ』（複式簿記について述べた最古の書。1494年にヴェネツィアにて刊行された数学書。［141X@76@1］）やこれに後続するイタリア簿記書の影響を少なからず受けているが、未販売商品を独立の項目として扱っている点などは従前の書にはない特徴的な点として注目され、また、この点には期間計算の存在が看取される。『新しい手引き』には1543年刊のオランダ語版のほか、同年刊のフランス語版、1547年刊の英語版があって、それぞれ最初のフランス語簿記書、二番目の英語簿記書とされる。『数学覚書』はこの『新しい手引き』と双璧をなす。

オラニエ公マウリッツの家庭教師や同公付きの財務長官の任にあった科学者シモン・ステヴィンの『数学覚書』は、タイトルに「君主マウリッツ閣下が学ばれたるものを収録」との記述があるように、ステヴィンがオラニエ公に教授した事柄からなり、5部構成の第5部において簿記を扱っている。本書の簿記は商業簿記と王侯簿記からなるが、いずれにおいても、ステヴィンはイタリア式簿記、すなわち複式簿記をオラニエ公に推奨している。簿記書としての本書は一般には期間計算の成立を示す文献とされているが、他方、複式簿記の公会計への応用を示している点にその意義を認める向きもある。本書はオランダ語版、フランス語版、ラテン語が同時期に刊行されており、慶應義塾のこの蔵書はフランス語版であるが、これには第4部に当たる部分がなく、また、これにおける刊行年の記載は全体の標題紙には1608年、第1部の扉には1608年、第2部の扉には1605年、第3部の扉には1605年、簿記を扱う第5部の扉には1608年とある。

「16・7世紀ネーデルラント」の繁栄の担い手はアントウェルペンからアムステルダムへと移り、17世紀の繁栄において豊富な財力をもったアムステルダムの商人たちが乗り出したのが東インド貿易、そこにおける莫大な要調達資本が結果したのがオランダ東インド会社であった。この会社は完全な継続性を携えて発足し、一般には株式会社の起源とされているが、こうした会社の登場を背景として、定期的な期間計算、さらには年次の期間計算が一般化をみてゆくこととなる。

スタッフレポート

冷凍庫には本!?
古典資料を守るディープな世界

竹内 美樹（スペシャルコレクション担当）

一橋大学社会科学古典資料センター（以下、古典資料センターと表記）が主催する「第33回西洋社会科学古典資料講習会（2013年11月6日～8日）」を受講しました。全国の図書館職員や西洋社会科学の研究者などを対象に毎年開催される大人気の研修です。古典資料の目録の作り方や、時代背景・保存修復などを学んだ3日間の講習の中から一部を簡単にご紹介します。

マニアックな喜び：書誌学

「書誌学」という言葉は普通の人にはあまりなじみがないかもしれません。ごく大雑把に表現すると「書物の歴史や形態・材料・装飾などに関して研究する学問」と言ったところでしょうか。ご想像通りとてもマニアックな世界です。つい見逃してしまいそうな小さな手がかりから、その本がどこでどのように作られたのか探り出す、探偵のようなイメージかもしれません。例えばページの隅に書かれた謎のマーク、これは印刷した全紙を折り畳んで本のページ順にするための「折り記号」（図1）です。さらにページの透かし模様（図2）の向きや位置をみるとその本が紙を何回折り畳んで作られたかもわかります。また、標題紙に描かれた出版社のイラストや、年代を示すローマ数字のちょっとした特徴からも出版地が判別できる事など大変興味深く受講しました。

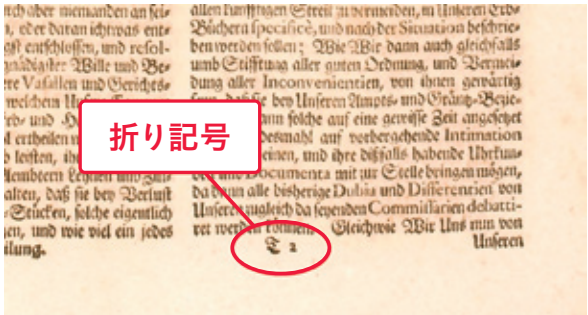


図1　折り記号

図2　透かし模様（ぶどうの房）

ただでさえ難しいのに…

図書館では1冊1冊の本について目録を作りますが、古典資料の場合、タイトルや著者名、出版地、出版年などの基本的情報を見つけるにも苦戦する事がしばしばです。今回の研修では、事前に募集された「目録を作るのに悩む資料」の標題紙をサンプルに各グループ4名で簡単な目録を作成しました。現代の図書と違い、著者やその本の素晴らしさを讃える文章がタイトルと一緒に書かれているなど特徴的な事が多いのが印象的でした。どの部分がタイトルなのかわからないラテン語資料や、アルファベットの判別すら難しいドイツの髭文字でびっしり埋まった事例もサンプルに出ており、楽しいながらも語学力の必要性を痛感しました。

古典資料センター見学

本は想像より大変デリケートです。害虫対策、光や温湿度（変色やカビの原因）、埃（害虫の温床）など注意すべき点が多々あり、図書館も日々対策を考えています。今回は古典資料センターの書庫と、歴史的年代の本を少しでも良いコンディションで維持するための修復工房を見学させていただきました。

書庫には埃や害虫の侵入を避けるため、靴からスリッパに履き替えて入ります。ずらりと並んだ書架は耐震補強され、本の落下防止バーも装着されています。書庫の壁は二重パネルになっていて、空調を入れなくても温湿度が一定しているそうです。盛夏時期以外は冷房不要という環境が羨ましい！

古典資料センターでは、受入した古い本はまず冷凍殺虫。さらに本についたゴミを吹き飛ばす専用の箱型マシンの中で掃除し、美術品用の柔らかい布で拭きます。その後必要に応じて、本に合わせたサイズの中性紙箱を作って収納して完了です。革装本の保湿や破れたページの修復、保存箱作成、マシンを使った本の清掃など、工房の専門スタッフの手さばきは、まさに熟練の一言です。三田メディアセンターの一部の図書についているグラシン紙やビニールカバーなどが、資料に影響を及ぼすか不安を感じているので、参考意見も少し伺うことができました。

虫害への対策

古い文庫本などのページに小さな虫が歩いているのを見た事がありますか？紙資料にとって、虫は大敵です。三田でも和装本でひどいものだとレース状に虫食い穴だらけになり、紙部分の方が少なくなってしまった例もあります。そんな虫の侵入を阻止する方法はいくつかありますが、古典資料センターでは強力な冷凍庫を見せていただきました。虫がいる可能性のある古い本を買った場合、まずはジッパー付ポリ袋で密閉し、冷凍庫に入れて一週間。といっても普通のものとはパワーが違います。太古の昔にエンジンオイルのCMで話題になった「バナナで釘が打てる」マイナス40度の世界です。（ここまでしないと虫の卵は生き延びるのだそうです。ものすごい生命力！）その他、虫害の予防には床や棚の清掃など日々の地道な努力が不可欠と感じました。

最後に

古い紙の資料は一度ダメにしてしまうともう取り返しがつきません。図書館に今まで生き残ってきた古い本を後世に残していくためには、常に最善の策を打つべきである事を今回の研修で再認識しました。西洋社会科学古典資料講習会はスペシャルコレクション担当の業務に直接関わりのある内容が多いので、今回学んだ事を積極的に活用していきたいと考えています。

主な出来事（2013.10－2014.3）

第25回 慶應義塾図書館貴重書展示会
「『百科全書』情報の玉手箱をひもとく～ドニ・ディドロ生誕300年記念～」開催

2013年10月9日から15日まで、丸善丸の内本店4階ギャラリーにて貴重書展示会が開催されました。18世紀フランスの思想家・文学者ドニ・ディドロ（1713-1784）の生誕300年を記念し、『百科全書』を中心に、17・18世紀ヨーロッパ辞書・事典コレクションの数々を展示しました。『百科全書』前史から始まり、『百科全書』パリ版や同時代の刊行物、対立関係にあった事典類、フランスから各国への波及、書物史の流れの中で影響を与えあった博物図鑑など、8つのセクションにわたって辞書・事典の歴史を辿りました。展示会監修者の鷲見洋一名誉教授によるギャラリートークも行われ、多くの方にご参加をいただきました。来場者は1,100名を超え、盛況のうちに幕を閉じました。

神奈川近代文学館ほかの展覧会に出品協力

2013年10月5日から11月24日まで神奈川近代文学館（横浜市）で開催された「生誕140年記念 泉鏡花展 ―ものがたりの水脈―」に協力し、泉鏡花の遺品類、自筆原稿など70点を出品しました。その他、2013年度は以下の展覧会に貴重書を出品しました。

- 国立歴史民俗博物館 「時代を作った技 ―中世の生産革命―」（唐招提寺版『表無表色章』1点）
- 神奈川県立歴史博物館 「こもんじょざんまい ―鎌倉ゆかりの中世文書―」（相良家文書、反町文書などから13点）
- 八代市立博物館未来の森ミュージアム 「秀吉が八代にやって来た」（相良家文書から13点）
- 長崎歴史文化博物館 「対馬藩と朝鮮通信使 ～十二万点の宗家文書が語る歴史の真実～」（対馬宗家文書、魚菜文庫から9点）
- 千葉市美術館 「江戸の面影 ― 浮世絵は何を描いてきたのか」（高橋誠一郎浮世絵コレクションから9点）

なお、図書館所蔵資料の展覧会出品情報は以下のページでも紹介しています。
➲ http://www.mita.lib.keio.ac.jp/exhibition/external_exhibitions.html

閲覧席に仕切り板を設置しました

2013年11月に3階3人掛け閲覧席に仕切り板を設置し、2014年2月に2階西閲覧室にも追加設置しました。半透明の仕切り板のため、圧迫感を感じることなく、向かいや隣の利用者を気にせず、快適に勉強に集中することができます。秋学期の試験期間前は、多くの学生で満席状態となっていました。1人でも多くの利用者が座れるよう、マナーを守ってご利用ください。

データベースエリアから“オリエンテーションエリア”へ

レファレンスカウンター横にあるデータベース用PCのレイアウトを変更し、毎年多くの申し込みをいただく文献探索ツアーをより広いスペースで行えるようリニューアルしました。文献探索ツアーでは、図書館資料やデータベースについてゼミやクラス単位で学んでいただくことができ、文献探索ツアーの実施時間外には、少人数用の学習スペースとしてもご利用いただけます。利用についてはお気軽にレファレンスカウンターへお尋ねください。

編集後記

昨年の春にリニューアルした『知識の花弁』も、早いもので2年目を迎えました。春号では三田メディアセンターを使いこなそうというテーマで、メディアセンターをご利用いただいている先生の声を中心に紹介しました。三田キャンパスの春は、桜の開花とともに、新学期をスタートさせたばかりのみなさんの知識のつぼみが花開く季節でもあります。次号が刊行される秋、図書館のエキスパートになってたくさんの収穫を感じられるよう、メディアセンターを大いに活用しましょう。

編集・発行 慶應義塾大学 三田メディアセンター
〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
TEL 03-5427-1654 FAX 03-5484-7780
発行日 平成26年4月1日
印 刷 有限会社 梅沢印刷所
http://www.mita.lib.keio.ac.jp